

## 飛行機の中で読むだけでフランス語会話ができるようになる本—イントロ（4）

塚田 泉

### 【ドロボウ相手の話し方】

まず、フランス語会話でよく使われる言葉を復習しておきましょう。

- ・ボンジュール（こんにちは）
- ・メルシ（ありがとう）
- ・シルヴァープレ（どうぞ）
- ・パルドン（ごめんなさい）
- ・ウイ・ノン（はい・いいえ）
- ・オルヴワール（さようなら）

これらの言葉をできるだけたくさん使います。

フランス語をよく知っているような態度で、堂々と発音します。

発音は、日本語の読み通りで充分です。

文章を言おうと思わないで、単語を並べるだけで表現します。

余計なことは喋らず、ボロを出さないようにします。

英語は、どうしても必要な場合を除き、使いません。

こうして、フランス語ができなくても、できるような顔をして、知ってる単語だけを何度も繰り返し返していると、それだけでも、フランス語が多少はできるのではないかと、多少は聞き取れているのではないかと思われます。

カフェに入っても、タクシーに乗っても、こういうポーズが必要だということは、すでに述べました。そして、このことは、街なかであなたを狙っている悪人どもから身を守るためにも必要なのです。

知ってるフランス語だけで済まない時には、余計なことは喋ろうとせず、英語で言い換えようなどとも思わず、むしろ沈黙することが重要です。

黙っていれば、フランス語ができるのか、できないのか、はっきりしません。まったく分からないのかも知れないが、分かるのかも知れない、そう思わせておくのが、今の段階では最善なのです。

なまじっか下手なフランス語を喋ろうとして、できないところを見せてしまうと、思わぬ危険が待っています。フランス語があまりよく分からず、英語しか話せないという日本人は、泥棒や詐欺師のいい標的になるからです。

パリの有名なカフェにもこういう悪党がたむろしていて、カモと思われるような日本人旅行者に近づいてくる場合があります。

英語やフランス語をチャンポンにした会話で面白おかしく取り入ってきます。中には日本語の喋れる男もいて、実に巧妙に、彼らを信用してもいいような気分させてしまいます。

支払いをしようとする、ギャルソンが「お勘定はもう済んでいます」と言います。言葉の分からない人には、そういう仕草をして見せます。

「私はあんたが好きになってしまった。この場はもたせてくれ」というようなことを男たちがさかんに言いますし、ギャルソンもグルらしく、こちらがいくら払うと言っても、なかなか受け取ってはくれません。

「私たちはもっと面白い所を知っているんだ。そこへ招待するから、一緒に行って楽しもう」と男たちが最後の決め手となる言葉を言い出します。

こうして、怪しげな店へ連れて行かれて、大金をはたいてしまう旅行者も多いらしいのですが、やり方が巧妙なので犯罪として立件するのが難しいようです。

自分の名前を公にはしたくない、帰国も間近だから今さら警察へ行ったってどうなるんだ、だいたい自分のフランス語では何も通じない、けっこう面白く遊んだからまあイヤ、等々の理由でウヤムヤにしてしまう人が多いようです。

このように誘われた時は、メルシ（ありがとう）の頭にノンをつけて、「ノン・メルシ」ときっぱり断ります。

曖昧な態度を見せるギャルソンには、ウーロ紙幣を突きつけて、はっきり勘定を促します。

勘定のほうは「メルシ」とお礼を言って済ませる、悪党どもの上に行く方法もありますが、ここは、あまり相手を刺激しないほうがいいでしょう。

最後に、「オルヴワール」と言って店を出ます。

オルヴワールは、使い方によっては「もう、あっちへ行ってくれ」という意味にもなります。悪党どもとは、これでオルヴワールです。

現金引出機の前も、フランス語のできない日本人が狙われる格好の場所で、引き出したばかりのお金を全部すられてしまったり、カードと暗証番号を盗まれたりした話が後を絶ちません。

現金引出機は、ふつう銀行の外にあります。歩道に面したところにあって、あまり用心が良いとは言えません。銀行の内部にもあれば、そこを使わせてもらうのですが、こういう店は少ないようです。

もう一つ、数台の現金引出機を集めたボックス式のものがあります。銀行の窓口とは離れた場所に独立してありますので、時には密室状態になります。観光客が狙われやすいのは、表通りの引出機よりも、こちらの方です。

中に2、3人いるからといって、油断はなりません。みんな仲間だということがあるからです。いちばん多いのは、暗証番号を見ておいて、カードをこっそり抜き取っていく手口です。

日本人観光客は、たいてい一度は引出機の操作に迷います。何しろ、日本語の表記はありませんし、機械の造りもだいぶ違ってますから。カードの差込口がどこにあるのかすぐには分からないような時もあります。

その上、暗証番号を押す時の日本人は、ほんとに無防備に近いんですね。隣の目などほとんど気にしません。どの番号を押すか隠そうともせずに、のんびり、ゆっくり押しています。これがドロボウの狙いどころなんです。

ドロボウは、暗証番号を見て取るや、後ろから追いかぶさるようにして、「ノン、ノン」などと言いながら、操作のやり方を教えるような振りをします。

こういう時は、はっきり、「ノン・メルシ」と断ればよいようなものですが、実はそれでは遅いんです。ドロボウの手は素早く動いて、いろいろなボタンを押していますから、今や、戻ってくるカードを取られないようにすることしかありません。

しかし、だいたい手遅れです。ドロボウの手は一瞬早くカードを抜き取って、さっさと立ち去ります。どこか近くの現金引出機で、少なくとも200ユーロ、多くて2000ユーロぐらいはすぐ引き出されてしまうでしょう。フランスでの現金引き出しの限度額はそのくらいだからです。

早めに気がつけば、「ノン・メルシ」を使ってもよかったのですが、その場にいる全員が仲間ということもありますので、大騒ぎするのは考えものです。隣の引出機の前にいる男が、暗証番号を盗み見るとも言われています。

結局、現金引出機を使う時には、自分の周囲にいる人間に注意し、暗証番号は誰にも見られないようにして、用心深く行動するしかないでしょう。連れがいる時には、背後を見張ってもらうことです。

私は、背後から覗かれることを何度か経験しました。人の気配がするので振り向くと、私の肩の上に男の首が出ていて、私の手元を見つめています。

「ヌ・ルギャルデ・パ」（見ないでくれ）と私は言いました。「セ・コンフィダンシエル」（これは秘密なんだ）

そこにいたマグレブ系の男は、ニッコリ笑って、  
「ヴー・ザヴェ・レズン」（もっともだ）と言って立ち去りました。

全部が全部とは言いませんが、フランスにはこんな感じのドロボウが多いということは救いです。フランス語を喋るというだけで、親近感をもつ悪党もいるのです。

この会話の説明をしておきましょう。「ルギャルデ」は、「見なさい」という命令形で、「ヌ・・・パ」で挟むと否定の意味になります。

こんな言葉がとっさに出てこない時は、「ノーン」と言って、首を横に振るだけで、充分通じます。

「セ・コンフィダンシエル」の「コンフィダンシエル」は、英語から類推できるでしょう。「セ」は、「それは・・・です」という意味。英語の it is です。セ・モンマルトル、セ・パリなどと言えます。

「ヴァー・ザヴェ・レゾン」の「レゾン」は、英語のリーズンです。「ヴァー・ザヴェ」は、「あなたは、持っている」という意味。

「ヴァー・ザヴェ・レゾン」は、「あなたは正しい」「もっともだ」「あなたの言う通りだ」などという意味で、よく使う言葉です。

とにかく、こんな具合ですから、カフェへ行くためにも、タクシーに乗るためにも、また犯罪を避けるためにも、フランスでの生活には慣れているんだ、何でも分かっているんだという顔をして、堂々と行動する必要があります。

知っているわずかなフランス語は、繰り返しをいやがらず、どんどん用います。あとは喋らないで、むしろ沈黙を守ります。知らないことを英語を交えてモタモタ喋るようなことはやめておきます。

こういう姿勢は、フランス語を学ぶために、フランスの生活に慣れるために、絶対必要です。

次の「まとめ・いざ空の旅へ」をぜひ読んでください。

飛行機の中で読むだけでフランス語会話ができるようになる本としてお勧めするのは、塚田泉著『へそ曲がりフランス語会話』ビワコ・エディション近刊です。